

平成 20 年度宮前区区民会議 企画部会（第 2 回）摘録

日 時 平成 20 年 9 月 30 日（水）午後 6 時 30 分から 7 時 30 分

会 場 鷺沼会館

参加者 永野部会長、宇賀神委員、川西委員、高木委員、田邊委員、前田委員、松井委員（以上、部
会委員）

区長、副区長、田邊企画課長、中山同主査、成沢職員（以上、事務局）

岩下研究員（コンサルタント）

傍聴者 3 名

開会（田邊企画課長）

- ・ 会議公開について説明し、委員が了承した。

区長挨拶

事務局より報告

- ・ 第 2 回区民会議の翌日に、サマーレビューで市長・副市長へ区民会議の報告を行ったところ、市長から、鈴木（恵）委員のような高齢者見守りの取組をぜひ市内全域に拡がるまで続けて欲しいとのコメントがあった。
- ・ また別の場で、市長より区民会議と参与との関係について「場合によっては、出席にメリハリをつけても良いのではないか」というコメントがあり、また、宮前区では意見交換会を行った事を報告したところ、良い試みなので他区にも伝え、続けてもらいたいとのコメントがありました。

議事（進行：永野部会長）

第 2 期区民会議の進め方について

永野部会長 第 2 期区民会議も全体会 2 回、専門部会も各 2 回ずつ開催し、少し様子見えてきたところ
と思います。新しいメンバーも加え、いろいろな考え方があると思いますが、それを互いに知り、活
かしあって、共有し、良い解決策を提示していきたい。今日はフリートーカーで、思っていること、
感じていることを言っただけだと良いと思います。最初に話題提供として、区民会議の全体の流
れ等について私の感じている事の資料を作らせていただいたので、説明させていただきます。

**資料（別紙参照）のポイントの説明を永野部会長が行い、質疑応答、意見交換を行った。主なコメン
トは以下のとおり。**

前田委員 第 1 期との継続性がよく見えていません。第 1 期は子育て支援を熱心に取り上げており、第
2 期はその継続かと思ったら、公園ということで、繋がりがよくわからないと言っていた委員がいら
っしゃいました。確かに 1 期の報告書の中に、子育てしやすい公園づくりの提案もあるのですが、な
ぜ自分がここにいるのか、どう役割を果たすべきなのか、見えていないということでした。

区長 内容としての連続性と、思想・考え方の連続性とがあると思います。内容としての地域の課題は、
そう簡単に変わるものではないのではないかと。運営の仕方、課題の取り上げ方によって、「私はこん
なことしかできなかったのだけれど、ちょっと違う」ということが防げると思います。メンバーが変わるこ
とと継続性については、事務局ともすり合わせながら進めていく必要があると思います。

宇賀神委員 子育てにしても、高齢者にしても、防災にしても、（第 1 期で検討してきた結果、）「コミ
ュニティをどう形成していくか」ということにつながってきました。少し戸惑いはあるかもしれませ

んが、1期から継続してきた「コミュニティ中心の考え方」を踏まえながら、区民会議を進めていく必要があると思います。

前田委員 1期の検討の結果を踏まえて、2期では子育てや高齢者などの問題にも資する公園を考えるとということ、宮前区に愛着を持てるような名物を考えるということですね。

事務局 制度として2期の委員は1期の内容に縛られる形になっていません。ただ宮前区では継続性も大事にし、1期の部会長さんには残っていただき、1期の提案が途切れないように見守っていただく前提で、委員構成を考えました。

1期と2期では提案の切り口が変わってきています。1期はピンポイントで提案をしてきましたが、2期はもっと広い捉え方をされていて、その中に高齢者や子育ての課題も入っていると考えていただければ良いと思います。

高木委員 1期は制度など細かい提案をしていました。第2期は、第1期の後半に共通の課題として出てきた「コミュニティをどうやって形成していくか」という課題に対し、幅広く捉えようとしていると思います。まだ道筋が見えていない面がありますが、公園にしても、宝物発見でも、コミュニティをつくりながらでないとうまくいかないと感じています。

永野部会長 顔の見える関係の中でいろいろな課題の解決を図っていこうということです。

高木委員 第1期では例えば子育てについて、支援制度などをとりあげ、協働で取り組みを進めてきています。さらにその取組をもっと進めるにはどうしたらいいか。もっとお互いを知り合っていないとできないという反省が出てきたのだと思います。

永野部会長 今日子育て支援関係者連絡会がありました。1期の提案を踏まえていろいろなことがやりやすくなってきていますが、まだ問題を抱えています。それは普段なかなか問題が見えてこない家庭をどうするかということです。それには連携、見守りが重要です。高齢者の問題も、地域みんなで見守っていくことの必要性が指摘されました。個人情報への壁があり、わかっている以上入り込めないことがあるのですが、問題を抱えた人を孤立させず、みんなで見守っていくことができれば、解決への糸口になると思います。

区長 実働的な部分は分けて整理する必要があります。最終的には委員長の資料のように、1つ上のレベルの共同体を目指しているのですが、まだ活動を始めて2年で、よちよち歩きの状態です。

川西委員 1期では、まずどんなことが区としての課題なのか精査し、それに着手しようという方向で、制度のことも織り交ぜながら解決法を提案しました。その中で、新しいネットワークの会議体も提案され、試みが始まりました。区民会議の提案によって、幅広い区民の人達が行政と手を合わせて取組を進めています。

内容の連続性の担保には、提案がどの程度実行されているかの検証作業が必要だと思います。思想・考え方の連続性については、運営のしかたやまちづくり協議会など他の市民活動団体との違い、区民会議が担わなければならない仕事や、責任の範囲や役割などについて、一度委員皆で話し合い、共通認識が持てるとう良いと思います。何人かの委員に聞いたところ、区民会議の意義を強く感じている委員がいる一方で、「区民会議を大切に思っていない。区民全員が取組めるような、わかりやすい、地べたの密着度の高い提案や取組にまで、まだ至っていない」とおっしゃった委員もいました。

第1期のこども部会の提案は未就学児の話のみでしたが、子どもは18歳までであり、学童や青少年の話が出ておらず、部会が終わることへの不満もありました。ところが、今回の第2期のテーマ設定では、全ての基盤や原因としてのコミュニティに行ったことで、テーマのカテゴリーが異なってきています。その辺りがどうなのかという問題意識はあります。

前田委員 公園でプレイパークをすれば、就学児童も高齢者なども両方解決できるような話題になるのではないのでしょうか。定期的にプレイパークができると思います。

宇賀神委員 切り口の問題だと思います。公園には子どもも高齢者も関わってきます。公園という切り口の中で、子どもや高齢者の問題も考えていければいいのではないかと思います。

松井委員 区民会議はわずか年4回ほどの会議です。委員はそれぞれの分野の代表ということになっていますが、本気で自分達の分野や活動団体を背負って考えられているわけではなく、どちらかという、一個人が、自分の活動や経験の範囲で意見を述べています。

子育ても高齢者も、大切な事はいつまでも大切です。ただ限られた時間と予算の中で、全てのことを取上げることはできません。これまでの事業や組織も地域社会に貢献しているのだけれど、どうしたら、より広く大勢の人が参加できるようなしくみにしていけるのか、新しい関わり方や課題の共通認識が必要です。公園には子育て中の親子も、高齢者も来ますし、緑もあります。公園を核として、それぞれの課題に対する高い理念を、様々な団体がうまく連携して実現していくことが大事だと思います。その手法を協議するのが区民会議だと思います。手法は1つではなく、いっぱいあり、いろいろトライしながら進めていければいいのではないかと思います。

永野部会長 第1期の子育ては乳幼児に絞られていましたが、今回公園を媒体に、もっと広がりをもった検討もできると思います。

田邊委員 第2期から参加して、どういうふうにやっていていいか、事務局も含め、いろいろな人と話をしながら来たのですが、なかなかわかりません。第1期とのつながりをどのように確保したらいいのかもわかりませんでした。

ただ、まず公園自体を把握し、その課題をおさえていかなければ、その次の子育てや高齢者などの段階までいけないだろうと考え、公園が現在実際におかれている環境について、よい点・悪い点の分析をしています。宝探しの部会と比べると進捗状況が遅いかもしれません。

また、子育ての方々の問題について、70歳の私が何か言っても絵空事になってしまうのではないかと懸念もあります。今子育てをしている世代の人達に来ていただいて、ディスカッションしていただくのが一番良いのではないかと思います。私の子育ては40年前に女房に任せきりだったものです。

私たち区民会議のメンバー同士がどれだけコミュニケーションを図れているかということ、まだまだです。部会の場以外では会っていないような中で、コミュニティの問題について、どこまでできるかどうかという疑問もあります。

松井委員 資料には理想が書かれているのだと思いますが、20万人以上の区民の中で、相当多くの区民に動いてもらえないと、実現できません。その手法をどう考えるか、どれだけの時間や人をかけることができるかが重要です。4回の会議のみで、実行部隊としてすごいスタッフがいるわけでもありません。もっと多くの市民が参加できる体制が提案されること、その仕組みをつくっていくことが大切だと思います。

今まで私も様々な地域活動に取り組んできていますが、小学校区くらいの範囲で地域毎に課題を発見し、解決できるしくみが非常に大切だと感じています。それぞれの地域に預けたほうが、地域がやりだすのではないかと。宝探し部会でも地域ごとにやれるような提案をしていければ良いと思います。

川西委員 松井さんの意見も理解できるのですが、区民会議は運動体ではなく会議体であり、非常に捉え方が難しい面があると思います。公園部会でも、現在公園の現状調査をしています。区内全部の公園を調査しようとする、非常に数も多く、また全部やる意味も無いと感じています。ある程度サ

ンプルを抜き出して、共通するような課題やニーズを共通認識として抜き出せば良いと思います。第1期の子育て支援で、検診時のニーズ調査アンケートに区民の方々に動いていただいたこともありましたが、公園の現況調査について例えば公園の利用者グループを活用する手もあり、区民会議の取組を広げていく効果もあると思います。

永野部会長 その辺りの認識を整理しなければ、いけないと思います。区民会議の調査・審議の段階にも、区民を参加させていくべきだということでしょうか？

松井委員 参加させるようなしくみをつくっていくということで、区民会議そのものがやるということではありません。福祉でいえば、包括センターができてきていますが、そういうものを活性化させるやり方を解決策の中で示していければ良いと思います。

宇賀神委員 コミュニティ部会で、1年くらい何も見えてこなかった経験があります。だから公園部会このこれまでの進捗について、あまり心配しなくても良いと思います。公園にはいろいろな関わり方があり、非常に広いテーマなので、ある程度の絞込みは早めにやったほうが良いと思います。

田邊委員 公園のあり方について、行政の方々にも動いてもらうようなしくみを話した上で、高齢者や子育てなどに入っていければと思います。川崎市には公園緑地管理運営協議会という仕組みがあり、公園を核に地域のコミュニケーションを図っていくことがうたわれています。愛護会やシニアの方々、ボランティアや自治会の方々などが一緒になって公園に関与していく。これに区民会議がこうやって下さいというようなことが言えるものではないと思います。

宇賀神委員 愛護会を活性化するにはどうしたらいいのか。連合自治会などがどう協力するのかというような順序だと思います。

永野部会長 解決策の実施にみんなが関わられるようにしたい。私が気になっているのは、調査・審議の段階から、区民を巻き込んで、いろいろな人に関わっていただくのか、それとも我々はあくまで会議体で、サンプルでうまくとりあげて行くのかということです。

区長 事務局としてもなかなか答えきれない、難しい問題だと思います。

永野部会長 区民会議の下に多人数の実行部隊を設けるという考え方もないわけではないと思います。

田邊委員 区民の方にただ頼むだけでは、いつまでたっても良いものはなかなか出てこないと思います。協議会が活性化していけば、自然とみんなが集まり、使いやすい公園になっていくと信じています。こういう会議に縛られてやっていくのではなく、行政に協力いただき、協働で進めていく、自治会や町内会にも動いていただくことによって伸びていければ良いと思います。

事務局 解決策が公園運営管理協議会を立ち上げることに特化してしまっているように感じます。それも1つの方法ではあると思いますが、もうひとひねり欲しいところです。

高木委員 例えば自治会に公園管理に関わってもらうにはどうしたらいいのかということでしょうか。

区長 公園というパブリックな空間を通して、そこでの出会いや、様々な活動の融合という視点から取上げたテーマだったと思うのですが、公園の使い方や管理の制度といった視点になっているのかなと思います。それももちろん必要なのですが、当初の視点とは少し違うように思います。宮前区として公園を通じたコミュニティの形成を考えていければと思います。

永野部会長 現状調査の視点をどのようにひねっていくか。一方向ばかり見ずに、視点を変えていく。どんな関係者に話を聞くのかなど、工夫も必要です。

松井委員 公園の使い方は地域によって様々です。絶対的な事例というのは無いかも知れませんが、例えば子育ての場として活用していたり、高齢者の健康づくりの場として活用していたり、良い事例はたくさんあると思います。そしてそうした事例は意外と知られていない。それを紹介し「そういう使い

方っていいね」「うちではこういう使い方をしてみよう」など動き出したら面白いと思います。

高木委員 宝探し部会では、第1回のフリートークで、結論や解決策に関わる部分までかなり広範な意見が出され、腹に溜めているものをまず出し切った面があったと思います。7区で初の区のマスコットをつくろうとか、親子の広報大使をつくってはどうかなどの話も出ました。そして2回目からは、足元を固めて行こうということで、具体的に何が宝物になりうるのかななどの討議になっています。宮前区にも様々な資料があるのですが、バラバラで、総合的なものはなかなかありません。川崎区では、「川崎区の宝物」として、区内の資源を網羅的に紹介していますが、宮前区ではもう少しコミュニケーションで捉えたい。地域で、自分達で宝物を探し、そのプロセスを楽しめるようなしくみを提案できないかなと考えています。広く知ってもらうため、やってもらうための提案をするのが区民会議と私は捉えています。いかに区民に携ってもらえるかが提案の鍵であり、行政に頼めば、解決するような提案ばかりではまずいと思います。

こども部会に学童に関する検討が無かったことには私も不満がありました。私も森などで子ども達の活動に関わっていますが、子ども達が関わっていける提案があまりできなかったのは第1期の反省点だと思います。第2期ではこの視点も入れていきたい。公園でも自治会が入れない利用は何か、愛護会や管理協議会にまかせれば良いというのではなく、サロン化し、運営を地域コミュニティで担っていくにはどうしたらいいか、検討していく必要があると思います。

永野部会長 区民が取組める、小地域で取組めるような解決策を目標にしなければならないと思います。

事務局 市長も常々そんなことを話しています。区民をまきこんでいくための、広がりやのしくみを提案して欲しいということでした。その検討過程では、公園利用者に対するアンケート実施などもありえると思います。

高木委員 公園の健康体操にこどもが関わってきた事例は非常に面白い事例だと思います。それまで高齢者だけの体操だったのが、新しい世代交流が進んでいます。その辺りが大事なのかなと思います。

宇賀神委員 一つ一つ踏んでいくやり方ばかりでなく、思い切った提案をしてみて、後から理論づけていくようなやり方も良いのではないのでしょうか

永野部会長 区民会議委員の方もそれぞれ活動をされている方が多いため、すぐ自分の団体に当てはめでの活動のイメージがすぐに頭に浮かんでしまうこともあると思いますが、他の活動団体との違いや一般区民の視点も踏まえて検討を進めていく必要があります。まだ1期が終わったばかりであり、区民会議に対する批判もありますが、これからは特に他の団体と連携を意識しながら進めていく必要があります。

松井委員 区民会議がこれまでのまちづくり団体と違うのは、まず条例で担保されているということです。区民会議が良いと思うのは課題を協議する場がしっかりと確保されていることだと思います。区民会議の提案から協働のプログラムがどんどんできていくことを期待しています。区民会議で実行まで面倒みられるかという、なかなか難しい面がありますが、区民会議委員もそれぞれの地域に帰った時にどのように関わっていくかを意識していければ良いと思います。

永野部会長 まちづくり協議会の前には区づくりプランの策定委員会があり、3年かけて議論し、その結果としてプランを策定しました。その実行部隊がまちづくり協議会ということでした。区づくりプランは、宮前区をこれからどうするという、大上段に構えたプランですが、区民会議はもっと地べた、暮らしに密着した課題を取上げていくものだと思います。

松井委員 大上段のビジョンも大切で、つながっていければいいのではないかと。区民会議は年4回の会議の中でどれだけの提案ができるか、工夫が必要です。地域を実際にいろいろと動かしていかないと、

課題解決はできないと思います。

川西委員 まちづくり協議会などの市民活動団体も、それぞれ性格が違います。活動の目的がすごくはっきりしているところも、なんとなくしているところもあります。社会福祉協議会、地域教育会議、PTAなども地域の活動団体です。これらの団体と、区民会議との距離感がどうなっているのかが、本当に知りたいところです。区民会議委員には、社会福祉協議会、観光協会などから出られている方もいますが、行政の頭の中にある外せない団体のイメージと私たちのイメージが合っていないことがあり、そうすると、「なんでうちを出さないんだ」ということが出てくる。その辺りのすり合わせもしておく必要があると思います。

松井委員 私は区民会議の検討内容に対し、まちづくり協議会としてどう動けるかなと考えながら、区民会議に参加しています。それぞれの委員がこのようなスタンスで自分の所属団体に活動していければ、良いと思います。

川西委員 区民会議ができて、一番成功したのは、地域教育会議のこれまでやってきたことが取上げられ、安全・安心協議会などの取組とドッキングして、協働事業となって予算となってきたことだと思います。これこそ区民会議だからこそできた広がりだと自負しています。ただ、ネットワークは永遠に続くものではないということ、個々の団体の活性化につながっているかどうか、などにも配慮していく必要があります。

松井委員 活用できるプログラムは活用していくということが重要ですね。

前田委員 第1期からの委員さんからのご意見も聞き、初めて区民会議としてのつながりが理解できました。区民の人が参加しやすい解決策を提案するということが非常に重要なのだなと思いました。

松井委員 我々だけでなく、行政が少し入ることにより、より広がることもあります。お上も大事にしながら、協働で進めていくことが必要です。

田邊委員 公園緑地管理運営協議会がどのようになっているのか、ある程度把握した上で次の段階に入っていきたいと思います。

宇賀神委員 区民会議が雲の上の存在になってしまっている面がまだあると思います。あまりに上の方のテーマを選んでしまったと思われてしまわないように、身近なテーマに本当に取り組んでいくのだということをアピールしていく必要があると思います。

閉会あいさつ